

# ファクトシート: 国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) と 京都議定書の概要

## 気候変動の仕組みと影響

グローバルな気候変動の影響はますます明らかになってきています。科学者は、気候変動によってすでに干ばつや洪水が増え、マラリアも広がっていると考えています。その他、ハリケーンの被害や山火事の増大も気候変動の影響だとされています。長期的な影響としては海面の上昇があげられます。作物への被害もありますが、これによって飢饉が広がりかねません。気候変動のもっとも深刻な影響のいくつかは、対策がもっとも遅れている国々で起こっています。アフリカの多くの国は、気候変動の影響をもっとも受けやすくなっています。

地球温暖化は二酸化炭素やメタン、一酸化二窒素など、過剰な温室効果ガスに起因しています。このようなガスは主として、化石燃料の燃焼や農業、ゴミの投棄から発生します。温暖化ガスは温室の壁に用いられるガラスのように、地表に届いた太陽エネルギーが再び大気圏外に放射されるのを妨げます。

## 条約と議定書

**気候変動に関する国際連合枠組条約 (UNFCCC)** は 1992 年、気候変動の問題へのグローバルな対策の基礎として採択されました。同条約の締約国は 192 カ国に達し、締約国の普遍性がほぼ達成されています。条約の究極的な目的は、気候系に対して危険な人為的干渉を及ぼすこととならない水準において、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることです。

同条約は、184 カ国が加入する 1997 年の**京都議定書**によって補完されています。同議定書によって、先進工業国 37 カ国と欧州共同体は 2012 年までに、温室効果ガスの排出量を 1990 年比で平均 5%削減することを約束しました。中でも、先進工業国は真っ先に気候変動への国内対策を講じなければなりません。しかし議定書は、先進工業国に対しいわゆる「市場ベースのメカニズム」を通じ、国外で排出削減を達成することも認めています。

例えば、議定書にある市場ベースのメカニズムの一つである**クリーン開発メカニズム (CDM)** のもとに、先進国工業国は開発途上国で温室効果ガスの排出を削減する持続可能な開発プロジェクトに投資することによって、排出量のクレジットを与えることが認められています。

UNFCCC と京都議定書には、気候変動の避けがたい影響に適応できるように国々を支援するという目的もあります。そのため、作物の耐塩性向上など、気候変動への抵抗力強化に役立つ技術の開発や、温暖化適応に関する成功事例の交換が促進されています。